

みさかえの園だより

第11号 2011年7月
発行所
社会福祉法人 聖家族会
発行責任者 中山和子
編集 総合活動企画委員会
〒859 0167長崎県諫早市
小長井町遠竹2747 6
☎0957 34 4520
☎0957 34 4521
[年2回(7月/1月)発行]

事務局長就任にあたって

常務理事

松田 静宗



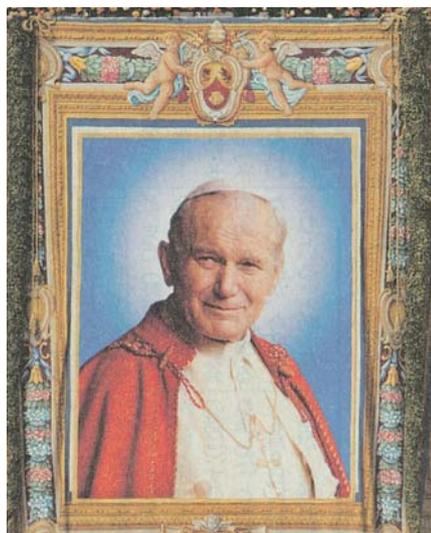
私は昭和十八年、五島列島の北の端の宇久島で禅宗のお寺の次男として生まれました。中学校まで島で暮らし、高校から長崎に出てきて今に至っています。大学卒業後は長崎大学病院、長崎市立乳児院（今はありません）そして長崎市の保健所に所長として平成二十年三月まで勤めました。その後二年間は長崎市の嘱託としてお手伝いをさせて頂きました。そして今年四月に当法人の事務局長ということで、みさかえの園に仲間に加えて頂きました。ふつつか者ですがどうかよろしくお願いいたします。

今年東日本大震災そしてそれに続く原子力発電所の問題、また自立支援法に関する諸問題等々課題山積

の年ですが、去る五月一日に前教皇パウロ二世が列福され、恐らくみさかえの園に関係する方々にとつては非常に素晴らしい年になったのではないかと思えます。仏教徒(?)である私にとつても感慨深いものがあります。一八八一年二月、前教皇ヨハネ・パウロ二世が長崎にこられた時に一つの命が救われたという経験があるからです。その時私は大学病院小児科から長崎の三菱病院に派遣されていました。長崎の松山競技場でのミサの当日は交通渋滞のため病院への出勤もままならないだろうというところで、病院に泊まり込んでいました。雪もひどかったと記憶しています。病院医局で多分ビールを飲みながら、泊まり込んだ皆と団欒し

ていたと思いますが、分娩室へきてくれという電話ですぐに分娩室へ行ったところ、生まれたばかりの新生児が泣き声がないどころか全く呼吸していません。吸引や気管内挿管等で、ややあつて自発呼吸がでるようになり一命をとりとめました。その後外来で経過をみていたのですが、発達も順調にっていました。恐らく今は元気な三十歳の青年になっていると思えます。自宅に帰っていて呼び出されても間にあわなかったらろうと思えます。全くの偶然だったとは思いますが、パウロ二世が来られていた時に一つの命が助かったというのは事実です。たとえ偶然であつたにせよ、あの新生児とそのご家族にとつては、パウロ二世は文字通り命の恩人です。ご家族も感謝しておりました。その後、私にはパウロ二世という名は、忘れられないものになっております。

私にとつて清らかな思いをいだかせるパウロ二世が列福された年に、これまたキリスト教の教えを具現化したようなみさかえの園に勤務させて頂くようになったことに、何か因縁めいたものを感じます。



「ヨハネ・パウロ2世教皇は信仰の故に、強く、寛容で使徒的な信仰の故に列福されました」と教皇ベネディクト16世は5月1日、バチカンのサンピエトロ広場でのミサで、前任者を列福した数分後に語った。

みさかえの園というのは、下界にいる時は、一つの清らかな理想郷的な場所或いは存在と考えていました。私のまわりの人達もそう感じているようです。そういうところに私のような不似合いな者がいつてもいいのかという指摘もされました。煩惱にみちた私のような者がここにいるのかどうかわかりませんが、煩惱も大事にしなから、心に垣根をつくらず、お役にたてるよう努力して参りたいと考えています。

国の政治のありかた又東日本震災の影響などで、今後の福祉施策がどうなっていくか予断を許さない状況の中、障害をもっている方およびそのご家族の方々の福祉を求めて、今までもはまた違った勉強をしなければならぬと気を引き締めているところですので。皆様の御指導よろしくお願い致します。

医療と福祉の連携で 地域支援の基礎づくり

園長 福田 雅文

最初に平成二十三年三月十一日、東日本大震災が発生して被災地の皆様にはまだまだ厳しい状況が続いていると存じますが、早急な支援と復興が進むことを祈っております。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

さて、むつみの家では昨年度も総合発達医療福祉センターとしての外来部門は、着実に実績をのばすことが出来ました。法人連携の多機能型活動所も利用者の皆様の笑顔が増え、活動内容が充実しサービスの向上につながっているとと思われます。

今年度の主な事業計画は地域への貢献を拡充することです。

県領域での発達相談や特別支援学校へのスタッフ派遣や地域の乳児検診にも加わり、近隣の子ども達への支援を広げます。さらに、児童デイサービスを開設して、就学前からの発達に気がなる子ども達にも支援の輪を広げていきたいと思ひます。

さらに、法人内で協力して、就労支援や生活介護、グループホーム・ケアホームなど、地域で暮らす様々な障がいの方たちを支援していくための基礎を作る大事な年度と考えております。

期待に応えられるよう職員一同で頑張っていこうと思ひますので、皆様のご協力お願い致します。

法人内施設

新職員紹介

のぞみの家



生活支援員
三根 志保

「その人らしさ」「利用者主体」ということを忘れず

にがんばります。

むつみの家



副施設長
松本 正

年をとった新人ですが、これからも努力していきたい

いと思ひます。



理学療法士
宮本 久志

理学療法士
となつて二十五年目の今春、これまで三ヶ

所の重症心身障害児(者)施設勤務を経て、入職しました。みさかえの園むつみの家の歴史、文化に触れながら従来とはまた違った新鮮な感覚

をもって施設を利用する方々と共に進んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



管理栄養士
田添 咲紀

様々な事を学び、日々成長できるよう頑張ります。



看護師
駒井 陽子

まだまだ未熟で、皆様にご迷惑をかけていますが、頑張つてミスのない看護に努めたいと思ひます。



看護師
山本 美紀

目配り、気配り、心配りと笑顔で利用者の方に安心してもらえるような看護ができるよう頑張ります。



保育士
植木真由美

毎日笑顔と思ひやりを忘れず、一生懸命にがんばりたい

と思ひます。



保育士
井上 夏子

笑顔で頑張ります。



保育士
船津 美咲

少しでも多く、利用者様の笑顔を見られるように、

コミュニケーションを大切に、頑張ります。よろしくお願ひいたします。



介護福祉士
西原あかり

利用者様と一緒に、笑顔いっぱい楽しんでみながら同じ時間を共有していきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



ゆづあいスポーツ 大会に参加して

園長 木村 トミ

五月八日長崎県立運動公園で「ゆづあいスポーツ大会」が開催されました。前日大雨でしたので、天候が心配されましたが、神様の贈り物当日は運動会日和のさわやかな一日となりました。

毎年感じるのですが、多くの方々の支えがあつて、この様な大会が開催されているという思いが、今回も致しました。西大村中学校吹奏楽部のプラスバンド演奏・諫早商業高校のバトン部の演技・昼食時にも演奏・バトン演技を下さり、利用者の方々と一緒に楽しいお弁当をとることが出来ました。のぞみの家の方々も、年々高齢者が増えスポーツ大会に参加する方が減少してきていますが、この様な楽しい雰囲気の中で過ごすことが出来たらと願っています。当日種々のボランティアをして下さった方々に心から感謝しております。のぞみの家の利用者も、精一杯頑張りました。



療育員 野中 誉文
研鑽を怠らず、常にいろんな事に意識を向けて日々

頑張っていきたいと思っています。



療育員 中西 優介
常に緊張感を持ち、利用者様一人一人、親密に介護支

援を行っていききたいと思う。更に介護の技術を高めていき、よりよい介護をし利用者様が苦痛のない介護をしていきたいと思っています。そして利用者様やスタッフの方々と良いコミュニケーションを行うことにより、明るく楽しい病棟にしていきたいと思っています。



療育員 高瀬 信也
自分自身のスキルupをめざして頑張っています。



福祉部事務 板屋 るみ子
利用者様を意識しながら、事務として誠実な業務を心

かけていきたいと思っています。

あゆみの家



法人事務局長 松田 静宗

「和」を大事に



検査技師 谷 小百合

検査機械と仲良くする



保育士 中山 志織

利用者の方々が混乱を招かない対応をする



療育員 和田 淳

利用者の方が怪我をしなような介護



療育員 松尾 晃暢

基本的な事です
が挨拶!!



調理員 新北 文浩

与えられた仕事を確実にこなす



調理員 佐藤めぐみ

笑顔で楽しく心を込めて調理



デイスベ-スあん 保育士 脇坂 千恵

笑顔で利用者の方の気持ちをくみ取りながら、頑張ります



デイスベ-スあん 生活支援員 小池 久

自ら楽しむ言葉遣い



デイスベ-スあん 事務員 前田 朋美

基本的な事です
ですが、元気に挨拶、笑顔と報連相



法人事務局員 高水間信子

笑顔を忘れずに、丁寧な対応を心掛けたい。

おかげさまで 五十年

副園長 中田 ソイ

昭和三十六年四月精神薄弱児施設みさかえの園めぐみの家開園

理念・目的

根本精神……キリスト教的愛と奉仕に基づく人命尊重（社会福祉法人聖家族会概要より）

初代理事長設立の思いは、この事業は聖母マリアさまのお望みで始められましたので聖母マリアさまの事業ですと常に口にされ、その理念のもと軌道に乗るまでは苦勞の連続だったと思います。施設を運営するに当たって参考資料はなく、只ひたすら祈りの中で聖母マリアのみ旨を信じて、ゆだねて、県や町の行政、地域の理解と協力によって、さまざまな困難を乗り越えてみさかの園めぐみの家は今日までよろこび苦難を共にしてまいり、今年創立五十周年

の記念の年を迎えています。

開園からめぐみの家には三八七人の入所者の可愛い笑顔があり、三三七人の温かい手のひら、温かい心がありました。運命の日が一日と近づいています。沢山、沢山の温かいめぐもりの中で五十年間さまざまな演技を繰り広げてまいりました。



児童施設の或る日の一日

開園当初行政機関に足を運ぶためにトラック一台、そのハンドルを握るたった一人の請川運転手、雨が降れば山から下る道はぬかるみ並大抵の困難ではなかったと聞いています。それから五十年、知的障害児施設めぐみの家に終止符をうち舞台の幕を降ろすのに断腸の思いをされているのは、創立当初の頃からみさかえの園の理念と目的をしつかりみつめて誠心誠意を尽くされ、雑役、事務長を経て、現在施設長である請川氏であり、そしてスタッフ一同でありましょう。しかし、時の流れ、聖母マリアさまのみ旨と受け止めて事業廃止に向け仕事を進めています。これから

もみさかえの園が創立当初に掲げている理念・目的に向かって喜びのうちに安心して前進されます事をお祈りしながら……

ニュース

デイスベースあん

「就労継続支援B型事業」開設

デイスベースあんは、今年の四月より生活介護事業・就労移行支援事業に新たに就労継続支援B型事業が加わり、多機能型事業所（定員三十名）がスタートしました。職員も職業指導員一名（のぞみの家から出向）生活支援員一名（あゆみの家から出向）全員が男性職員（イケメン・イクメン・イケダン??）を迎え育苗部門を中心にクリーニング部門（委託作業）・手芸部門に従事しています。肉体労働から細やかな手作業までと内容には、かなりの柔軟性が求められますが男性ならではの繊細さや新たな特技の発見があつたりと日々驚かされています。就労移行支援事業から移行してきた利用者四名を中心に今後は施設の移行に伴い地域での「自立」を目指し新たな目標を持った新規利用者も仲間入りの予定で増々、賑やかな事業所になりそうです。「働く・働きたい」「目標」「生きがい」へと連鎖反応が湧いてくるようなサポートが出来るように職員が一丸となって取り組んでいきます。

サービス管理責任者

門脇 直子

第二めぐみの家

不安を 希望に変えて

内田 旬一

平成二十三年度中には、児童入所施設「めぐみの家」は廃止となりま
す。めぐみの家の入所者十三名は第
二めぐみの家へ移動。それに伴い第
二めぐみの家の十四名の方は法人が
運営する共同生活事業（グループ
ホーム・ケアホーム）に移ることに
なります。これは障害者自立支援法
に沿った制度へ対応する為です。十
四名の方はめぐみの家で二十年以上
暮らした方たちです。施設では常に
職員が傍に居り、困った事が有れば
助けを求められました。しかし、グ
ループホームでは自分の判断で問題
を解決する場合が多くなるでしょう。
戸惑うことがたくさん出てくると思
いますが、その一つ一つを乗り越え
る事は夢を生み、暮らしを豊かにす
る事に繋がると期待しています。

今、新しい生活にスムーズに移れ
るように炊事・洗濯・買い物・お金
の管理など共同生活に必要な生活技

術を身に付けるための実習を行って
います。当事者、保護者、職員、皆
が持っている新しい生活への不安を
乗り越え新たな希望に向かって欲し
いと願っています。

さて、第二めぐみの家は旧法の入
所更生施設から生活介護事業（昼
の生活の場）・入所支援事業（夜の
生活の場）へと新たな枠組みに移行
します。新制度は利用者数に対し支
援者の配置が少ないなど多くの問題
はありますが利用者の笑顔を力とし
て、職員一同力を合わせ、工夫努力
をし、利用者が生き生きと暮らせる
施設を創っていく覚悟です。



新法に向けて

のぞみの家
作業指導員 中村 秀子

のぞみの家では日中活動として刺
繍をさしています。重度の方はス
ウェーデン刺繍の単調な直線な
ですが、糸の配色のバランス感覚は
いつも感心させられます。生まれ持
った潜在能力だと思えます。中軽度
の方はクロス、スウェーデン刺繍を
しているのですが、これがまた、絶
品、ゴージャス、職人技なのです。
これを商品として仕上げるわけで
すから、街に出てはヒントを見つけ
本を買っては悩み、他の職員から
アイデアをもらい、いつも頭の中は
ハラハラ、ドキドキ、ワクワクで
した。

しかし、平成二十四年一月からの
ぞみの家も新法に移行します。これ
からは、形は
変わっても、
新法に沿った
利用者さん達
のQOLの向
上に支援して
いきたいと思
います。



「グループホーム・ケアホームりん」 二番目が高来町に建築中！



現在小長井町牧のむつみの家の国
道近くにある「グループホーム・ケ
アホームりん」二番目の建物を高来
町コメリの手前に新築中です。ご存
知の方も多いかと思いますが九月中
には完成予定です。現在屋根と外壁
の作業が行われております。

「（りん）隣人と暮す「ゆめ」の架
け橋になるように」ということで、
「にじ」という名称をつけました。
定員全部で二十一名、三棟ありま
すので、一棟各七名となります。ど
んな色の虹が作れるのでしょうか。
楽しみですね！

感謝

ボランティア

三菱重工労働組合
長崎造船支部の
皆さんのご紹介

毎年、夏と冬の年二回、「利用者さんの車椅子清掃」をしていただいています。皆さんの手にかかる



椅子は見違える程「ピッカピカ」になります。自前の工具や磨き剤を持参され、さすが「ミツビシさん」。時には部品を取り外してサビ取りやメンテナンスまでやっていたことがあります。日頃、なかなか車椅子清掃にあまり時間が割けない私どもにとって、大変ありがたいボランティアなのです。

（それは車椅子を使用される重度の障害をもつ利用者さんの普段の様子を少しでも感じていただけるよう。）

ある時、ボランティアのお一人が「今回の車椅子清掃はもろろん、実際にこのような施設で利用者の皆さんとお会いできて自分にとって貴重な体験となりました。また機会があったら、いろんなボランティアにチャレンジしたい。」との感想を話されました。

このようなボランティア

活動を通して、あゆみの家のみならず福祉への積極的なご理解を頂きましたことは非常に有難いことです。福祉に従事する私どもにとっても、そのことを伝える責務があると思います。今後もたくさんのボランティアの方に来園していただき、ますます利用者の方や施設が身近なものとしてご理解が得られますよう心がけていきたいと思っています。

毎年、同日、むつみの家にもボ

ランティアされています。

心から感謝いたしております。

（重症心身障害児施設あゆみの家の車椅子清掃ボランティアより）

あゆみの家福祉相談科

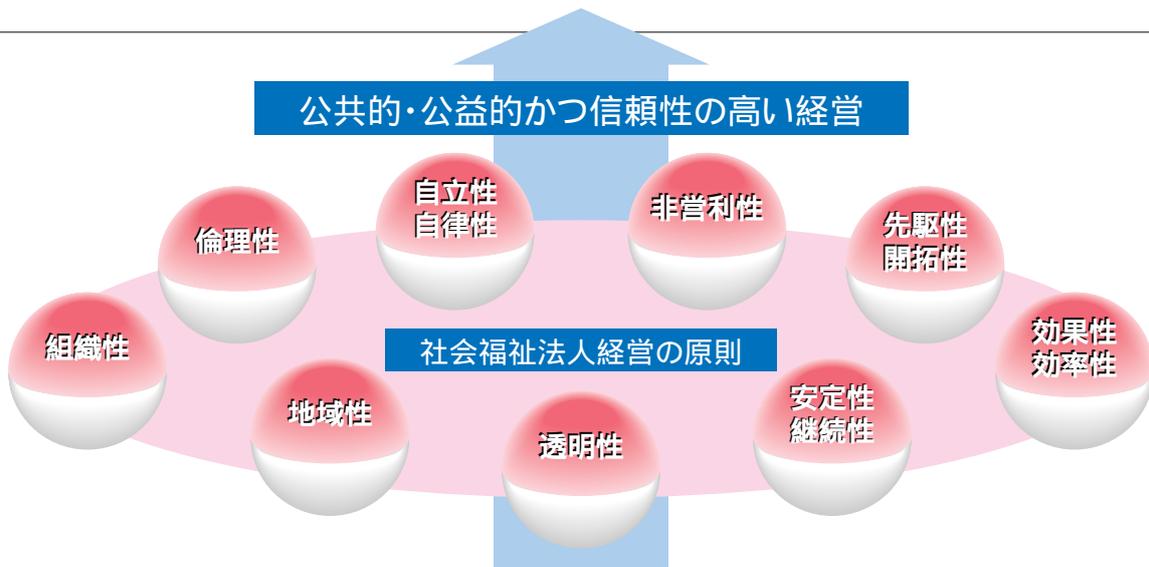
ケースワーカー 藤江 智志



社会福祉法人の使命(社会的責任)の遂行

社会、地域における福祉の発展・充実

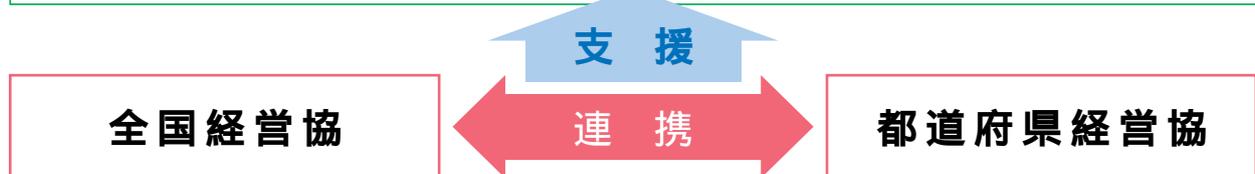
- 個人の尊厳の保持(権利擁護)
- 自立生活の支援・地域社会への参加支援
- 共に生きる社会づくりへの貢献
- 社会・地域における福祉システムの構築
 - ・良質かつ安心・安全な福祉サービス
 - ・サービスを支える人材育成
- 低所得者への支援
- 災害支援
- 福祉文化の創造 等



新・アクションプラン21

会員法人に求められる取り組み(社会福祉法人行動規範)

<p>利用者に対する基本姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権の尊重 サービスの質の向上 	<p>職員に対する基本姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材育成・適切な人事・労務管理の実践
<p>社会に対する基本姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との共生 社会的ルールの遵守の徹底 説明責任の徹底 利害関係者との適切な関係の保持 行政との連携・協力の促進 国際化への対応 	<p>事業活動に対する基本姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共的・公益的取り組みの推進 組織統治の確立 財務基盤の安定化 経営者の役割の遂行 経営責任の明確化



社会・経済環境の変化

経営環境の変化

諸改革の進行

社会福祉法人聖家族会
平成22年度 決算報告

貸借対照表

科 目		金 額 (千円)	科 目		金 額 (千円)
流動資産		1,774,721	流動負債		253,537
資 産 固 定	基本財産	3,189,846	資 産 固 定	長期借入金(整備を含む)	0
	その他の固定資産	4,570,542		引当金	
				その他の固定負債	
			純 資 産	基本金	670,604
				積立金	4,322,274
				次期繰越活動収支差額	4,288,694
				(うち当期繰越活動収支差額)	(566,288)
合 計		9,535,109	合 計		9,535,109

事業活動(収支)計算書

科 目		金 額 (千円)	科 目		金 額 (千円)
人件費支出		2,468,076	医療費収入		1,914,366
減価償却費		230,513	国庫補助金等特別積立金取崩額		16,859
その他の事業活動支出		650,338	その他の事業活動収入		1,958,342
事業活動外支出		202,705	事業活動外収入		229,154
特別支出		929	特別収入		129
その他積立金積立額		832,000	その他積立金取崩額		0
次期繰越活動収支差額		4,288,694	前期繰越活動収支差額		4,554,405
合 計		8,673,255	合 計		8,673,255

各施設の住所

ホームページ <http://www.misakae.or.jp/>

めぐみの家・第二めぐみの家
☎859 0167 ☎0957 34 3112
長崎県諫早市小長井町遠竹2727 10

♣みさかえの園サテライトセンタ -
☎859 0164 長崎県諫早市小長井町牧272 2

むつみの家
☎859 0164 ☎0957 34 3113
長崎県諫早市小長井町牧570 1

○総合相談室
○相談支援事業所スマイルサポ - ト
☎・Fax 0957 34 9700

のぞみの家
☎859 0167 ☎0957 34 3114
長崎県諫早市小長井町遠竹2727 11

○みさかえヘルパ - ステ - ションひびき
☎0957 34 3230・Fax 0957 34 3240

あゆみの家
☎859 0167 ☎0957 34 3115
長崎県諫早市小長井町遠竹2727 3

○グル - プホ - ム・ケアホ - ムりん
☎・Fax 0957 34 3200

法人事務局
☎859 0167 ☎0957 34 4520
長崎県諫早市小長井町遠竹2747 6

○デイス - ス『あん』生活介護・就労移行支援・就労継続支援B
☎・Fax 0957 34 9700 (総合相談室共有)

編集後記

去る3月11日の東北大地震、津波、原発事故により多くの被災者の皆様が物心両面において苦しみ、悲しみ困難を抱えておられること心からお見舞いを申し上げます。又被災者救援の為に多くの善意が花咲き、ボランティアとして奉仕されていることをテレビ等で知り、大変心温まる思いです。

約30年程前に聖母の騎士修道女会で難民生活を過ごされたフォングさんご夫婦からも、日本の一大事を知り早々に日本円で約40万円の小切手を送ってくださったり、一昨年スペインへ帰国されたパレリ - ナのモンセラットさんからも見舞いのお便りをいただき感激いたしました。皆様は日本を心のふるさととしておられるようです。

平成23年度は新体制移行の年として、創立50年の変身時期になるようです。みさかえの園 がんばれ! M・M・H